

遺伝子依存症リスクスコア (GARS) と電気療法との組合せ 医原性オ

ピオイド依存との闘い

要約

処方された薬物の乱用で誘発される合法的医原性オピオイドの流行は主要な世界的関心事である。痛みの経路と痛み軽減の神経生理学におけるドーパミンの役割を理解すれば効果のある治療法に繋がる可能性がある。A 2011 NIDA レポートでは 12 歳以上の全米人口の約 8.7% が過去 30 日以内に精神薬を用いたと述べている。様々な薬物使用障害 (SUD) に対して遺伝子は全体的におよそ 60% ほど関わっているが GWAS によって評価した各候補遺伝子 (candidate gene) は相対的に少ないと報告されている。この世界的な流行と闘う試みにおいて、私たちは多くの代替戦略を提案している。オピオイド過剰摂取による死亡の防止と薬の過剰処方を減らすためには以下に焦点を絞った戦略をたてるべきである；

- 1) 大量投薬患者
- 2) 多くの医者にかかっている者
- 3) 「薬剤偏愛」に陥っている者
- 4) 依存への陥りやすさと重症度を調べる遺伝子テスト
- 5) 電気療法等のような薬を使わない鎮痛治療